



# 市保連 だより

2010  
(6月)

[第397号]

平成22年6月1日発行  
社団法人 熊本市保育園連盟  
広報委員会  
発行責任者 重岡 啓一  
〒860-0806 熊本市花畑町3-1  
熊本市花畑別館3F  
TEL (096) 322-0096  
委員長 清永 ヤヨヒ  
委員 鬼塚 静波  
委員 建川 美徳  
委員 建村 上川 逸  
委員 平川 裕季子  
委員 伊形 けい子  
委員 石井 福栄  
委員 石角 奈二



理事会

## 自分の子ども時代を振り返って

西部ブロック長 飽田東保育園 園長 吉 永 八 郎

園庭で子どもたちが、すべり台や砂場で楽しそうに遊んでいる姿を見ていて、自分の子どもの頃を思い出すことがあります。

私は戦後第1次ベビーブームに農村の片田舎で生まれ、大家族の中で育ちました。

その頃は、どこの家庭でも4～5人兄弟姉妹が当たり前の時代でしたから、近所には同じ年頃の子どものたくさんいて、誰が呼びかけるでもなく、4～5人が何となく集まり一緒に遊んでいました。

今のように満足なおもちゃなどありませんでしたので、その辺りにあるものを使って、遊ぶしかありませんでした。

何処で何をして遊ぶかは、年上の「ガキ大将」が決める慣わしで、寒い時はコマまわしや相撲をとったり、暖かくなると周りの竹を切って、竹とんぼや竹馬を作り、小川に行っては水浴びや小魚を捕ったりしていました。竹や木を切ったりするために、折りたたみ式の小刀(現在は、所持禁止です。)は、必需品で必ずポケットに忍ばせておきました。

年齢の違う人と一緒に遊ぶ中で「どうしたらケガをしないか、どうしたら上手に作れるか、何はしたらいけないのか」など、年上の人が年下に順に教えていくという構図が自然に出来ていたようです。お陰様で、小さな生傷は絶えなかったものの、大きなケガをしなくて済み、いろんな体験の中から、遊びの楽しさと生きていくための知恵を自然に身に付けていけたように思います。

大人は直接その場になくても、子どもたちがどんな遊びをしているか、ちゃんと把握し見守っていただいていたようで、危ない遊びや悪

いことをした時はこっぴどく叱られたものです。当時を振り返って考えてみたら、地域全体で見守られ育てられてきたことがよく分かります。

現在の子どものたちの環境はどうでしょう。食べ物には困らず、様々なおもちゃなどがお金さえ出せば簡単に手に入る、とても便利な世の中になりました。

一方、少子化と核家族化が進んで、近所で一緒に遊べるお友達も少なく、いろんな体験をする機会が少なくなっています。おじいちゃんやおばあちゃん達と一緒に暮らしている子どもたちは、まだ幸せな方だと思いますが、核家族では、十分な躰やいろんな経験を積む機会が少ないのではないのでしょうか。

また、町や道路は整備されてきれいになりましたが、地域全体の子育て機能が低下していることに加え、交通事故や犯罪などの危険性も高くなってきていることから、安心して自由に遊びたくとも、安全に遊べなくなっているのが現状だと思います。

昔と今の暮らしを比べてみても、一長一短があると思いますが、家庭や地域の子育て力が低下している今、保育園の役割が一層重くなってきています。

保育園の責任者の一人として、将来を担う子どもたちの健やかな育ちのために、改めて与えられた役割を自覚し、家庭では出来ない学びを補完すると共に地域の子育て支援の役割を十分に果たしていかなければならないと意を強くする次第です。





保育士会

## 子どもの気持ちに寄り添う保育

しらふじ保育園 保育士 楯岡大輔

私は保育士になり、早いもので7年目を迎えました。子どもの気持ちに寄り添う保育を心がけていますが、いざ行なってみるとなかなか難しく、毎日が試行錯誤の連続です。

ある時、上靴に落書きをしている仲良しのグループがいました。わたしはそれを見るや、大きな声で「コラー！何してる」と叱ったのですが、後からよく話を聞いてみると『仲良しの証』として上靴にマークを書き、みんなで集まった時に見せ合う、という子ども達なりの理由があったのです。私は只単にその行動だけを見て注意をしたのですが、理由を聞いて、そんな思いがあったんだという事に気づき、只々反省ばかりでした。

子どもの行動の裏には、必ず理由があるという言葉を聞いた事がありましたが、その事があってから私の子どもに対する接し方は少しずつ

変わり、子どもの気持ちに寄り添いながら保育をしたいと思うようになりました。

子どもたちが笑顔で「先生遊ぼう」と近づいてきてくれる喜びは、本当にこの仕事を続けて良かったと思います。

そして、そんな理想とする保育の中に男性保育士としての自分のカラーを少し加えながらこの保育士というやりがいのあるすばらしい仕事を今後も続けていきたいと思っています。



調理師会

## 食教育の必要性について

リズム幼稚園 調理師 木村都代子

私がリズム幼稚園の調理師として、働き始めて、早いもので16年の月日がたとうとしています。毎日子ども達の「給食先生、今日の給食は何ね。」から始まり、「今日の給食、おいしかったよ。」と言ってくれる言葉で、一日が終わります。そんな言葉を聞きながら毎日給食を作っています。

先日あるお母さんから、「給食先生、納豆あえてどんなふうにするんですか。」と質問されました。「家で納豆だけ出しても子どもは食べません。」「これは納豆じゃないもん。」と子どもは食べないそうです。そこで私は納豆あえの作り方を教えて「ぜひうちでも作ってあげてください。」と言いました。それから数日後、「先生ありがとうございました。喜んで納豆あえを、食べています。」というお話でした。



私も、とてもうれしい気持ちになりました。

新年度を迎え、毎日子ども達の明るい歓声の中あわただしく、毎日を送っています。最近、子ども達の食についての現状は、朝食欠食の増加や、脂肪の摂取過多、孤食傾向の増加など多くの課題があると思います。そのような中で、調理過程における、下処理、調理、配膳などの工程において、清潔、迅速及び冷却、加熱処理が行われているかを確認し、その結果を記録することを心がけてい

ます。これからも、子ども達や保護者のみなさんとの、コミュニケーションを密にして、食事が単に空腹を満たすだけのものではなく、安全で、安心な、楽しい給食になるよう、子ども達との会話を楽しみながら作っていかうと思います。



園長会

# 目標に向かって

雁回まこと保育園 園長 朽木 恵津子

保育園が設立され35年、当初は、雁回山の麓に位置し、四季折々の山の変化や鶯の鳴き声、美しい花々、川には蛍が乱舞し、自然に囲まれた良い環境でした。9年前、改築になり交通の便の良い現在の場所に移転しました。山とは違い周囲は田んぼですが、山とは違う季節感があり、静かでのどかな所です。当時山からは見えない夕日や、夕やけがきれいだった事を覚えています。

さて、園の保育目標を当初より、たくましく、感謝し、感動できる子となる様にかかげ頑張ってきました。園長になってまだ日は浅いのですが、園内の職員、子ども達の様子は、よく見てきたつもりです。富合町は、まだまだ大家族が多く、お年寄りも同居されています。その為でしょうか思いやりのある優しい子ども達です。

障がい児等にも優しく接してくれます。勿論職員も、出来ない事を頑張った時は褒める、子どもの話もよく聞き、泣いている時は、優しく言葉をかけている様です。保育士は子どもの発達や行動を理解し、適切な声かけをし、子ども達の可能性を引き出し、心身共に成長し、共に伸びる様心がけて、大切に保育しています。また、園では家庭で得られない子どもも同志の育ち合いがあります。共に過ごす事で徐々に社会性を身につけ、集団生活、人と群れる事の楽しさを十分経験させ、達成感や自信に繋がる様に、また個性や長所を伸ばしながら将来心身共に健康で自立出来る様、園全体で支援し取り組んでいきたいと思っています。



## 6月の予定

会合	担当年齢	日	時間	会場	研修内容
年齢別・実技研修会	0、1歳児	21(月)	14:00 ~17:00	国際交流会館	「グループ討議」 「アドバイザーの先生より内容説明」
	2歳児	22(火)	14:00 ~17:00	国際交流会館	「グループ討議」 「アドバイザーの先生より内容説明」
	3歳児	9(水)	14:00 ~17:00	国際交流会館	「グループ討議」 「アドバイザーの先生より内容説明」
	4、5歳児	30(水)	14:00 ~17:00	国際交流会館	「グループ討議」 「アドバイザーの先生より内容説明」
	実技研修	23(水)	14:00 ~17:00	崇城大学 市民ホール	0歳児からのリトミック(対象:未満児) 講師:リトミック研究センター 敦賀香代氏
主任保育士研修会		3(木)	9:30 ~12:00	くまもと県民交流館パレア 9F	第1会議室
リーダー保育士研修会①		3(木)	14:00 ~17:00	熊本市現代美術館	アートロフト
保育士全体研修会①		10(木)	14:00 ~17:00	熊本市国際交流会館	6F ホール
保育士全体研修会②		26(土)	14:00 ~17:00	子ども文化会館	
看護師全体研修会		15(火)	14:00 ~17:00	くまもと県民交流館パレア 9F	第1会議室
理事会		8(火)	14:00 ~17:00	熊本市国際交流会館	3F 国際会議室
園長会		24(木)	14:00 ~17:00	くまもと県民交流館パレア 9F	第1会議室

ご結婚おめでとうございます

- 帯山のぎく保育園 5月2日 保育士 山川 優希(旧姓 佐尾)
- ひむき保育園 5月2日 保育士 守口真奈美(旧姓 野田)
- すぎのご保育園 5月3日 保育士 小城 春香(旧姓 上村)



園長会

## 再出発に思う

城南慈光保育園 園長 甲斐真也

42才で園長に就いて10年目の今年は、「再スタート」が重なる年になりました。

- 合併して「市保連」での再出発。
- 老朽改築工事を終え新園舎での再出発。

また、健康面では昨夏、脳内出血で入院し、血压管理、食生活改善の再出発のおまけ付きでした。

社会的にも政変の中で、「無いはずのモノが有ったり」「有るはずのモノが無かったり」と、当分は行政や保育現場の混乱に影響しそうです。

そこで、保育園では「保育目標」を改訂しました。

- ① みんな なかよくあそびます。
- ② じぶんのことは じぶんです。



③ おはなしを よくききます。

とにかく、わかり易く簡単に、を心掛けていきたいと考えています。

特色の無い保育園なんだけど、空気のように絶対欠かせない存在を目標にしています。当然、保育士の役割が肝要ですが、これまた、目標に向けて園長の「想い」を、「地道に根気強く対話すること」に尽きることでしょう。簡単が一番と思います。

ともすれば、楽隠居したがる自身を鼓舞しながら「もうあとひと息」と、苦心する毎日を過ごしています。諸先輩からのご鞭撻を、どうぞよろしくお願い致します。



園長会

## せめて邪魔はしないように

蓮の実保育園 園長 蓮田善英

合併に伴って「移籍」になりました蓮の実保育園と申します。今後ともよろしくお願いいたします。

国道3号線と旧3号線にはさまれた植木町の中心市街地？に位置しております。地の利にもかかわらず数年前から定員割れが発生し、何とかしなければと白髪の数を数えています。

当園が大事にしていること、それは「遊ぶこと」です。微妙ですが「遊び」ではなく「遊ぶこと」

です。なぜかと言うとそこに子どもの自発性を見るからです。これはある建築家に語った「あなたの遊具は、子どもの動きを妨げていませんか」という老保育学者の言葉が根っ子にあります。自分の子ども時代を思い返しても、小石



や棒切れなどがおもちゃでした。子どもは本来的に遊ぶもの。与えられなくても、あるものをつかって工夫し遊ぶことを始めます。しかも、子どもの一日は遊びに始まり遊びに終わると言っても過言ではありません。自分で遊びを見つけ、工夫し発見・研究をくり返していく。保育園をそういう場にしたいと思います。あらゆることが先取りされる時代。子どもにも早く早く優しい強制が鳴り響いている時代。そこに<いる>ことより何か

を<する>ことーそれは同時に<させる>ことーに追われています。

広葉樹に囲まれた園庭で、子どもたちはゆったりと「子どもの時間」を過ごしています。そんな園です。